



鉄路を守る 根室本線対策協議会

根室本線と赤平の駅

根室本線の滝川・富良野間は、大正2年11月10日に下富良野線として開通。同時に赤平駅(当時は上赤平駅)と平岸駅が開業し、赤平市における鉄道の歴史が幕を開けました。その後、大正7年には茂尻駅が開業しました。鉄道の開通によって沿線の炭鉱開発が積極的に進められ、まちが大きく発展しました。それに伴って乗降客数、貨物取扱量は大きく増加し、昭和35年には貨物取扱量で赤平駅が全国一を記録したこともありました。

鉄道を取り巻く環境の変化

昭和40年代に入ると炭鉱閉山やトラック輸送など時代の流れによって、鉄道貨物の取扱いは少なくなっていました。昭和56年には石勝線(南千歳・新得間)開通の影響を受けて、根室本線は道東方面への大動脈としての役割を奪われ、旅客人数の大幅な減少と、ローカル路線に拍車がかかりました。国鉄は茂尻・平岸駅の無人化などの合理化を進め、分割民営化によって、鉄道を取り巻く環境は大きく変化しました。

維持することが困難な線区

JR北海道は昨年11月18日、「単独では維持することが困難な線区」として10路線13区間を発表しました。その中に根室本線(滝川・富良野間、富良野・新得間の2区間が含まれています。赤平市を通る滝川・富良野間は、鉄道を維持する仕組みについて地域と相談を開始する区間と示されています。様々な経費節減策や、運行と鉄道施設保有の組織を分ける上下分離方式など、合理化に関する検討を行いたいとの意向です。【資料1】

JR北海道報道発表(抜粋)

平成28年11月18日(金)

【資料1】

線区別の諸元(平成27年度)

路線区間	営業キロ(km)	輸送密度(人/キロ/日)	1列車平均乗車人数	営業損失(百万円)	営業係数
根室本線 滝川～富良野	54.6	488	23	1,183	1,010
根室本線 富良野～新得	81.7	152	11	979	1,854
富良野線 富良野～旭川	54.8	1,477	49	956	363

※輸送密度＝年間輸送人員 ÷ 営業距離 ÷ 365日

※営業係数は、100円の営業収入を得るのにどれだけの営業費用を要するかを表す指数。100を超えると赤字。

輸送密度が200人以上 2,000人未満の線区について 根室本線(滝川-富良野間)

鉄道を維持する仕組みについて、地域の皆様と次の項目を軸に相談を開始したいと考えています。

- (ア) 設備の見直しやスリム化、ご利用の少ない駅の廃止や列車の見直しによる経費節減
- (イ) 運賃値上げによるお客様に応分の負担をしていただく方法
- (ウ) 沿線の皆様に日常的に鉄道をご利用いただく利用促進策
- (エ) 運行会社と鉄道施設等を保有する会社とに分ける上下分離方式

そのうえで、輸送サービスを鉄道として維持すべきかどうか検討を行います。

根室本線対策協議会の取組

根室本線対策協議会では、沿線自治体の首長と議長が鉄路の維持・存続に向けた協議を行っています。昨年からの取組をお知らせします。

〔平成28年11月14日(月)〕

国鉄の路線を引き継いだ第三セクター「いすみ鉄道株式会社」(千葉県)の鳥塚社長を講師に招いて「鉄道フォーラム」を開催しました。廃止の危機から立て直した図ったアイデアをお話しいただき、鉄路の存続に向けてあらためて動き出しました。

〔平成28年11月18日(金)〕

JR北海道が「単独では維持することが困難な線区」を発表。

〔平成29年4月27日(木)〕

根室本線対策協議会総会が行われ、沿線市町村・北海道・JR北海道による「事務レベル検討会議」を設置しました。鉄路の維持・存続に向けた経費節減策、利用促進策、住民意識を高める策について検討していきます。

また、これまでの沿線4市2町に加え、占冠村が加盟することとなりました。

【資料2】

根室本線対策協議会の組織

【資料2】

根室本線対策協議会

- 市町村長、市町村議会議長で構成
- 構成自治体…滝川市、赤平市、芦別市、富良野市、南富良野町、新得町、占冠村(4月から加盟)

事務レベル会議

- 市町村企画担当課長、北海道交通政策局、JR北海道地域交通改革部の3者で構成
- 経費節減策、利用促進策、意識醸成策を検討

JR利用実態調査アンケート

平成29年6月29日(木)実施

【資料3】

赤平・茂尻・平岸の各駅で、JRを利用した65人(3駅合計)にアンケートを実施。あわせてこの日の始発から終発までの乗降人数を調査しました。

- 年齢 10代(50人) 20代～50代(6人) 60代以上(9人)
- JRの利用目的
通学(50人) 通勤(5人) 通院(1人)
買い物(6人) 観光(1人) その他(2人)
- 利用頻度
毎日(56人) 週数回(3人) 週1回(3人)
月数回(2人) 年1回以下(1人)
- 最終目的駅
滝川(39人) 芦別(17人) 札幌(3人)
旭川(2人) 富良野(2人) 市内(2人)
- 根室本線が見直し対象であることについて知っている(35人)
- JRが廃止されてバス転換されると困る(48人) 困らない(6人) わからない(11人)

各駅における1日の乗降人数(6月29日)

駅名	乗車人数	降車人数	合計
赤平駅	112	101	213
茂尻駅	19	18	37
平岸駅	12	7	19
合計	143	126	269



いすみ鉄道車内にて鳥塚社長(右端)から説明を受ける



国土交通大臣へ要請書を手渡す



赤平駅での聞き取り

〔平成29年5月30日(火)〕

沿線自治体の首長と議長、関係者が鉄道フォーラムで紹介された「いすみ鉄道」を視察しました。実際に取組を体感し、鳥塚社長とあらためて利用促進策について意見交換しました。

〔平成29年5月31日(水)〕

国土交通省で沿線の状況を説明し、JR北海道への支援や災害対応などの要請を行いました。

〔平成29年6月29日(木)〕

沿線自治体で一斉にJR利用実態調査アンケートを行いました。赤平市では市内の3駅すべてで、乗車待ちの方にアンケートのご協力をいただきました。また、始発から終発まで、すべての便の乗降客数を調査しました。

【資料3】

今後とも、根室本線対策協議会において沿線自治体と連携を強め、協議を進めていきます。また、関係方面への要請活動を通して、通学・通勤・買い物などといった皆さんの生活や、観光振興に大きな影響を持つ鉄路の維持・存続に向けて取り組んでいきます。

赤平市では鉄道のみならず、バスやタクシーを含めた多様な交通体系を維持したいと考えています。皆さんには公共交通機関の積極的な利用をよりしくお願いします。